ＴＩＣＯニュースレター　2004 年 10 月発行

Face to Face 創刊号 NO.1

特定非営利活動法人ＴＩＣＯ

TICOがNPO法人になりました。「TICO」は「ティコ」と読んで下さい！

- 9 月 6 日、「特定非営利活動法人 TICO」設立の申請が正式に認証されました。これまで TICO（徳島で国際協力を考える会）が行っていた活動および財産は特定非営利活動法人 TICO に引き継がれます。
- Face to Face も今号から新たにニュースレター形式としました。

ザンビア・スタディーツアー（9/5～9/15）。ンゴンベ・ナーサリースクールの子どもたちと遊ぶ参加者の皆さん

正井潔さん（神戸市消防局）が救急隊の技術指導のためボランティアでザンビアを訪問

＜主な記事＞

- *チペンビローン新規事業サポーター募集*
- *神戸市消防局からプロが来た*
- *ＷＡＨＥプロジェクト通信*
- *救急プロジェクト通信*
- *ヒダノ修一チャリティーコンサート*
- *１０月地球人カレッジのお知らせ*

TICO（ティコ）は保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカのザンビア共和国の支援活動を行っている NGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993 年に任意団体として設立され、2004 年 9 月に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

京都議定書が近々発効、日本の責任とＮＧＯの役割

ＴＩＣＯ代表　吉田　修

ロシアが批准見込みとなり、やっと京都議定書が発効となりそうです。

これにより日本は、温暖効果ガスを２０１２年までに９０年のレベルから６％削減する義務が生じました。実は９０年に比べ排出量は７．６％も増加しております。従って１３．６％も削減しなければなりません。確かに我々の生活は１４年前より、電気製品は増え、自動車も増え、ますます飽食になっているようです。この間何も有効な手段を取ってこなかったということです。

果たして、日本政府に、或いは日本人にその覚悟があるのでしょうか。非常に疑わしい。最大の排出国アメリカは、経済発展のためにはそんな事言ってられないと、早々と拒否しています。しかし、小学生が考えても解ることですが、環境があっての人間の暮らしであり、経済です。アメリカ型の大量消費に支えられた経済は幻であり、持続可能なはずがありません。

海水温が１～２度上昇しただけで、日本もアメリカやカリブ諸国も台風、ハリケーンの甚大な被害を受けました。ハイチでは２０００人以上の死者が出ています。海面も確かに上昇しています。私の自慢の田んぼも度重なる台風で今年はかなり不作です。今後ますます気候変動の被害は拡大するでしょう。自然は既に警告を発しています。

アフリカでも９０年ごろから干ばつが頻発しています。ザンビアでは一昨年がひどかった。今年はケニアが深刻な被害を受けているようです。

大量にエネルギーを消費している先進国の責任が重大であることは、言うまでもありません。先進国が温暖化対策に最大の努力をするのは当然であり、アメリカのような国は、環境悪の枢軸国と呼んでいいでしょう。世界は大変迷惑します。

さて、日本は何をなすべきでしょう。２つ方法があります。１つは国内で排出削減をする。既に技術は開発されつつあります。後はいかに痛みをこらえて実行するかです。これには炭素税がもっとも有効でしょう。２つ目は、海外での排出削減に協力することです。これまでに批判のあった環境破壊型開発へのODA拠出は中止し、省エネやリサイクル、植林や森林保護、環境保全型農業などへの支援を大幅に増やすべきです。また、ODA でもっと日本の NGO を活用すべきです。

多くの NGO は概ね規模は小さいですが、様々な活動を行っています。TICO も、ザンビアの乾燥した大地に緑と水が蘇る事を夢見て、農業大学と協力して農業に有効な樹木の苗木を育成しています。ぜひ、ご協力お願いします。

さくら診療所も、太陽光発電（最大３０ｋｗ）、薪ストーブ(３台)、２重ガラス窓、残飯の堆肥化などにより、普通の同規模の施設よりはかなり二酸化炭素排出を抑制しています。

今後もできることを探して実行したいと考えています。

吉田　修　（よしだ　おさむ）

1958 年生まれ、外科医。青年海外協力隊でマラウイに派遣され、その後ＡＭＤＡに参加しイラン、モザンビーク、ルワンダなどで救援活動を行う。現在、徳島県山川町の「さくら診療所」で地域医療を実践しながら、代表として「ＴＩＣＯ」を運営している。

チペンビ農村開発ローン

新規事業サポーター募集！！

事業 NO.8 養鶏事業
グループ名：サングワポクラブ
サングワポクラブ会員数：１０名（女性５名、男性５名）
今年の予算：約 10,000 円
将来やりたい事：養鶏の拡大、魚の販売

リーダーのシンフクエさんはチペンビの農業学校で２１年に渡って経理担当者として地域の為に尽くし、退職後は慣れ親しんだチペンビで農民として暮らしている笑顔の素敵なお爺さんです。

シンフクエ爺さんの悩みは、首都から離れたチペンビではザンビア人の大好きな鶏肉が手に入りにくく、周りの皆がご飯のおかずに困っていること。肉を食べるなんてとても稀。野菜やシマ（とうもろこしの粉をこねて作ったもの、ザンビアの主食）だけでは栄養のバランスも気になります。お肉を食べれば栄養問題の全てが解決されるわけではありませんが、今のままでは動物性蛋白の欠如は明白です。栄養状態の改善は病気への抵抗力向上につながり、おいしい食事は心を豊かにしてくれます。チペンビ農村開発ローンを利用してチノノ女性の会が養鶏事業を展開していますが、それによって全てがカバーされるわけではありませんし、常に鶏が売られているわけではないのです。ならば、自分でやるしかない！と自宅の一部を改築、鶏小屋にしようとしているのです。

養鶏が軌道に乗って利益が出てきたら、それを元手に魚の販売も手懸けたいとも考えています。全てはチペンビの方々に美味しいものを食べてもらって、元気になってもらおうということから養鶏事業を始めたいと思っています。

リーダーのコメント

シンフクエさん

皆が困っているのを見かねてね。養鶏を成功することができれば食卓も賑わうし、もちろん収入向上にもつながるじゃないか。鶏小屋の目処もたっているし、あとは当面の購入費用だけなんだ。それをサポートしてもらえると本当に助かるね。

〈サポーターになる方法〉

郵便振替用紙に、サポートする事業と何口支援して頂けるかをご記入のうえ、下記の口座に支援金をお振り込み下さい。住所、電話番号、メールアドレスなどご連絡先、支援するグループ名を必ずご記入下さい。振り込み確認後、申込書を送付致します。

支援して頂いたお金のうち、資材の代金を彼らから１年間、毎月分割払いで返して貰います。返還されたお金はまた彼らの新たな事業資金に充てさせて頂きます。**出資額については返金されませんのでご注意ください。**

郵便振替口座：01640-6-37649
加入者名：TICO

サングワポクラブのメンバー

	事業名（グループ名）	
1	足踏みポンプ導入による菜園拡大（カクンバ農民組合）	実施中
2	養鶏（チノノ女性の会）	実施中
3	手押しポンプ設置による井戸再生（ツェツェ村自治会）	実施中
4	搾油機によるひまわり油精製（チレンガレサ有志の会）	実施中
5	雑貨屋（ムウィナの丘協同組合）	実施中
6	養鶏（カサカ子どもの家）	サポーター募集中！
7	保育園整備（ギルモア祝福の保育園）	サポーター募集中！
8	養鶏（サングワポクラブ）	サポーター募集中！

＜チペンビ農村開発ローンとは＞　農民グループに対して、彼ら自身が考え出した小規模起業を支援するために、事業資金の貸し付け・研修指導を行ないます。つまり途上国でのベンチャーキャピタル事業。足踏みポンプの導入、養鶏、雑貨屋開業といった小事業が農民グループ自身の手によって行なわれています。　また、農民グループそれぞれを資金面で支援する日本人サポーターを募集します。サポーターには農民グループから事業期間中、定期的に（開始時、中間時、終了時）支援対象グループからの手紙・写真をお送りします。　　サポーター募集中のグループを支援するには、原則的には１グループあたり１口￥５，０００で、１５口￥７５，０００必要です。　必要な資材、会計・技術講習費などの経費が含まれます。

神戸市消防局からプロが来た！

ＴＩＣＯザンビア事務所　五十嵐　仁

ザンビア首都ルサカ市に救急隊を整備するＴＩＣＯのプロジェクトも本腰が入ってきました。ボランティア隊員の訓練、事故を取り扱う交通警察官への応急措置法の指導、さらにはルサカ市消防本部消防職員への技術指導なども少しずつですが始まりました。そして、これらの技術指導に一役かって出てくれたのが、神戸市消防局のプロである正井潔氏です。現役の行政消防職員でありながら、ご自分の休暇を利用しザンビアの救急隊整備のためご尽力を頂き、その情熱と精神に心から感謝しています。正井氏の到着を警察庁長官シアカリ

マ氏が空港で待つなど、国をあげての歓迎ぶりは私の７年間のザンビア滞在でも初めての経験でした。

訓練は、今後指導的な立場となる警察官、消防職員、そしてボランティア救急隊員を選抜し、短期集中型の講義を含む技術訓練研修を８月６日から１４日まで９日間行いました。これまで警察・消防・救急関係者が一体となり緊急事案に対応することがなかったザンビアだけに、今回の正井氏のザンビア訪問により新たなチャレンジへの門戸を開き、三位一体となり協力して事案への対応できるようになるための基礎ができたと思います。

救急隊員に訓練指導をする正井さん（右）
中央が筆者

具体的な訓練内容は、交通事故における怪我人の救出法、ルーカススプリッダー（壊れて開かない車のドアを油圧で開く機材）やカッター（車両のフレームを切断する機材）を使った救出法など短期ながら密度の高い訓練指導をしていただき、私自身も数年分の復習と新たな学習をさせていただきました。

８月１４日には、警察庁が新しい体制（三位一体）でプロジェクトを実施するための式典を催し、今回の研修を受けた隊員によるデモンストレーションが行われました。まだぎこちないところも沢山あり、正井氏も思わず苦い顔をしていた時もありましたが、生まれて初めて使う救助機材にしては、全隊員よくがんばったと自負しています。

これからが本番ですが、ザンビアにおける緊急事案に対応するモデルが正井さんの指導の下今後も進展していくことを現場からも祈っています。私もできる限りの指導を続けたいと思っています。そして、怪我人が医療の恩恵を得られるルート作りに寄与したいです。

救急隊の訓練の様子

WAHE プロジェクト通信

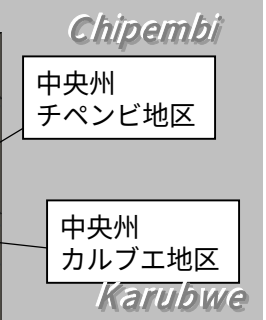
TICO ザンビア事務所　江橋裕人

WAHE（ワヘ）とは？

Water(水)、**A**griculture(農業)、**H**ealth(健康)、**E**ducation(教育)の略で、これらの領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙った TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年 9 月よりザンビア南部州にて飢餓対策緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」であり、「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。

いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウェに決定した。

ザンビア共和国



注意）文中のカッコ＜＞内の名称は事業名を指す。＜ムウィナ＞、＜チノノ＞等は農村開発ローンのグループ名（3 ページ右下の表を参照）。

チペンビ

＜チペンビでの主な事業＞
- 農村開発ローン
- 牛薬浴槽
- アグロフォレストリー

◆　4 月 20 日（火）晴れ
＜ムウィナ＞店が民家の敷地内にあり、犬がいることが売り上げ阻害要因。そこで店舗を道路沿いに移動。価格設定が少し高いようで、メンバーは値下げを検討。地域住民のインタビューでは街中まで行かずとも買い物ができるようになったのは助かるとの声が聞かれた。

◆　4 月 21 日（水）晴れ
＜牛薬浴槽＞家畜薬浴槽 2 回目の使用。今回まではお試しコースということで無料。本日利用の牛は 681 頭。これが続けば採算は問題無かろう。

薬浴とは？
疫病防止のために牛の体を消毒

＜チノノ＞鶏に餌を与えすぎて餌不足に。「やり過ぎたら駄目と言ったでしょ！」と注意。

◆　4 月 28 日（水）晴れ
＜牛薬浴槽＞本日の利用は 828 頭！この調子なら利用料金で薬代などの維持費をまかなえそう。
＜チレンガレサ＞サンフラワー購入予定を確認。
＜アグロフォレストリー＞フィールドを見学。苗木はよく育っている。

◆　4 月 30 日（金）晴れ
＜ツェツェ＞使用料金を取って、順調にポンプは利用されている。菜園、淡水魚養殖はまだ進んでいない。

ポンプは順調なんだけど

◆　5 月 12 日（水）晴れ
＜カクンバ＞4 月分集金。

◆　7 月 5 日（月・祝日）晴れ
＜チノノ＞ヒナを届けるために訪問。2 時間以上のトラックでの移動に耐えて 102 羽全部、元気。すぐに小屋に移して砂糖水を与える。

せっせと鶏のヒナを小屋に移します

◆　7 月 28 日（水）曇り
＜チノノ＞先日購入したヒナのうち死んだのは 3 羽のみ。おおきなトラブル無くやっている模様。

あと 3 週間で売れ頃！

◆　7月 29 日（木）晴れ
＜薬浴＞チルクツ家畜薬浴槽除幕式。農業省大臣も出席。（→トピック１参照）

カルブエ

＜カルブエでの主な事業＞
使用不能だったボアホール（井戸）の修理により菜園への水供給を可能にし、並行して農民に野菜栽培法などのセミナー開催。

◆　4 月 20 日（火）
現存する地区の委員会をもとに、ボアホール運営委員会を作ったため、役員決めの会議。約４０人が参加。

ボアホール運営委員会の会議の様子

◆　4 月 27 日（火）
菜園計画進行確認の為に訪問。コミュニティーのみんなで用地の準備をしていることを確認。20 名ほどが作業。先週草が繁っていた所が 50×50 メートルほど開かれていた。

◆　5 月 4 日（火）晴れ
ボアホール（井戸）の修理完了。あとはポンプを据え付けるのみ。くみ出した水は菜園用に使う予定。

◆　5 月 17 日（月）
カルブエのワークショップ初日。内容はジェンダー理解の大切さ、HIV/AIDS 理解の大切さ、トマト栽培についてなど。開始は３０分ほど遅れたが、ザンビアにしてはかなり正確な時間で始まった。出席者は 30 名で、上々のスタート。

◆　6 月 25 日（金）晴れ
キャベツとタマネギはうまく育っていないがトマト、ブロッコリーなどは順調。多少の失敗はあるが、以前はただの藪だったところに水が来て畑となっている光景に感動！

◆　7 月 1 日（木）晴れ
菜園計画は進んでいるが、まとめ役が不在。ただ自助努力は進んでいるようなので見守ることにする。

◆　8 月 11 日（水）
ボアホール（井戸）が効果を発揮し、菜園の野

菜は乾期にもかかわらずここまで順調に育っている。菜園では６人が作業中だった。男性はポンプで水汲み、女性は水をまく担当。キャベツ、タマネギ、カリフラワーなどが順調に育っており、トマト畑拡大予定地もきちんと整備されていた。

とても重そうです

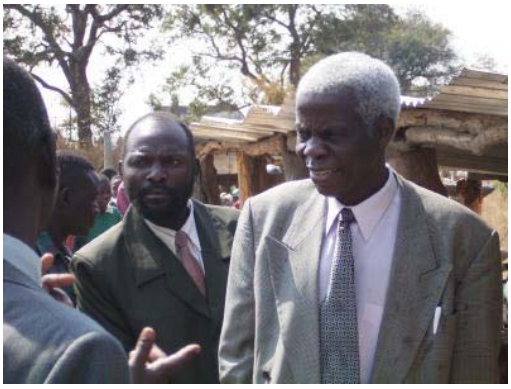
キャベツも大きくなりました

トピック 1

家畜薬浴槽除幕式　農業省大臣も出席

７月 29 日、チペンビ地区チルクツの家畜薬浴槽除幕式が催され、ＴＩＣＯザンビア事務所代表江橋裕人氏、ザンビア農業省大臣スカタナ氏などが出席した。スカタナ大臣はスピーチで「コミュニティーとＮＧＯの協力によるこの事業に感銘を受けた。乾期の水不足に備えて、今度はザンビア政府がこの薬浴槽のためのボアホール(井戸)を作る」と述べた。

この薬浴槽は以前ヨーロッパの援助で作られたが壊れて長年使用されていなかった。現地農業省の獣医さんたちの指導のもと、地域の牛所有農家とＴＩＣＯが共同で修理し、家畜の疫病を防ぐために再活用している。現在２つの薬浴槽が、修理・活用されている。



スカタナ農業省大臣

救急隊整備プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所　五十嵐　仁

ザンビアにはこれまで日本で言う 119 番の救急隊というものが存在しなかった。2002 年 10 月から本格化したこのプロジェクトは人口 200 万の首都ルサカ市の救急隊の整備を目的としている。ＴＩＣＯと警察庁が協力しボランティア、警察官、消防官を媒介に救急隊の整備を行っている。このザンビア唯一の救急隊が 24 時間体制でルサカ市の救急救命活動を担っている。

◆　7 月 15 日（木）
横浜港を出港した車両 2 台がザンビアに到着。

◆　7 月 18 日（日）
神戸港を出港した救急車や救急機材等がザンビアに到着。

◆　7 月 20 日（火）
ワゴン車を救急車仕様に改造。（→トピック２）

◆　7 月 29 日（木）
警察庁長官、TICO ザンビア事務所訪問。到着した救急車等に喜びの表情。

◆　8月2日（月）

農業祭で警察庁とともに行った展示が金賞受賞

ルサカ市の農業祭でＴＩＣＯの救急基盤整備プロジェクトを含む警察庁の展示が政府部門で最高の金賞を受賞した。昨年は銀賞だった。

ＴＩＣＯおよびＴＩＣＯが支援する救命救急隊（ボランティアベースで活動）は昨年に引き続き救助機材や救急車の展示発表を行い、警察庁の展示の３分の２を埋め尽くす事になった。

農業祭は首都ルサカ市で毎年開催され、娯楽の少ないザンビアでは唯一といって良いほど盛大に行われるイベント。国内の民間企業、政府系機関、ＮＧＯ・ＮＰＯが展示発表を行う。展示内容は農業分野に限らない。

◆　8月7日（土）～8月16日（木）

正井潔さん（神戸市消防局・救急救命士）が救急隊指導のためにボランティアとしてザンビア訪問。（4ページに関連記事）

◆　8月16日

早くも訓練の成果。前日の訓練が２つの命を救う。（→トピック３参照）

トピック 2
寄贈車４台がザンビアに到着

6月7日に横浜港から出港した2台のワゴン車が7月15日に、6月2日に神戸港から出港したワゴン車と救急車と救急機材が7月18日にそれぞれＴＩＣＯザンビア事務所に無事到着した。

これらは全国のＴＩＣＯの活動を応援してくださる団体、個人の方から寄贈されたもの。プロジェクト巡回訪問車、救急基盤プロジェクトの救急車としてすでに活用されている。

南アフリカまでは船、そこからは陸路で輸送。コンテナごと運ばれてクレーンで降ろします

車も荷物も無事でした！

救急隊員も荷物降ろしをお手伝い

色を塗ってサイレンを付けて、救急車に変身！現在、ルサカの街で活躍中です

トピック 3
早くも訓練の成果

2台の車が正面衝突し、そのうち1台のダッシュボード、ハンドルが室内に食い込むという事故が発生し現場へ急行。運転手（男性）と助手席の人（女性）２名がシートとダッシュボードに挟まった状態で、両名とも呼吸ありでした。多少話すこともでき、運転手は全身に傷を負っており、女性も腹部をダッシュボードに圧迫され激痛を感じている状況でした。

今回寄贈していただいた油圧エンジン、カッタ

ー、スプリッターを設置し、正井さんから教わった練習のとおり、椅子の背もたれの付け根を両方カッターで切断。それでも足がダッシュボードで圧迫されていたので、歯を縦に入れ直し、油圧バルブ開放！よーし！と他の隊員と呼吸を合わせ、なんと３０秒でダッシュボードを持ち上げることができました。一方では、運転手を空港消防がもってきたかなり大きなカッター（手動・チェーンを切ったりするもの）でハンドルを切除。両名とも呼吸があるまま救急隊で病院へ搬送を済ませました。大成功です。

私自身、この救助機材を生まれて初めて使い、尊い命２つを今日救うことができたのは、とても幸せなことです。終了後興奮しました。別の隊員も大喜びです。「できた！助け出せた！」と自信がもてたようです。前日の訓練で正井さんが指導したことを、次の日に使うとはすごいことです。非常にうれしかったです。今日は、救助第一号の日でした。ザンビアの救急救助の歴史の第一歩を踏み出しました。

救急プロジェクトの活動や救急車・救急機材の寄贈がザンビアの新聞に掲載されました

ly stigmatising them as guilty carriers of the deadly HIV.

He said HIV/AIDS was women and was actually causing more disease and death among women than men.

Prof Serpell also observed

against girls and very young women by desperate men who were seeking to avoid the disease and in the process, ravaging the innocent lives.

care of children by crowding orphaned children into the homes of widows and grandmothers and by pulling ado-

An ambulance described as a "moving Intensive Care Unity" worth US $ 35,000 was donated by the Kobe city of Japan to Zambia's community police rescue project in Lusaka recently

Legal knowledge is vital to local communities - CCJDP

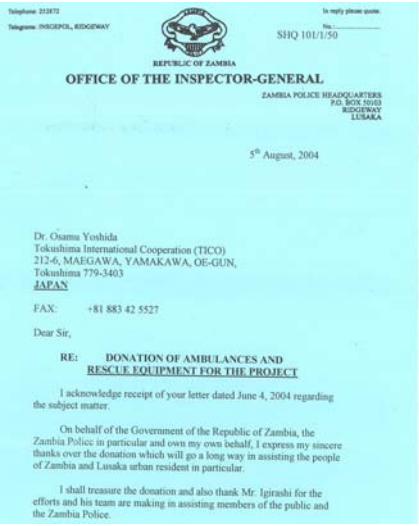
By Alfarson Sinalungu

high fees that lawyers

the paralegal in the local

a vital instrument in the

ＴＩＣＯの救急プロジェクトに対して、ザンビア警察庁から感謝状が届きました。



Telephone: 253872

Telegrams: INSGEPOL, RIDGEWAY

In reply please quote:

No.:

SHQ 101/1/50

REPUBLIC OF ZAMBIA

OFFICE OF THE INSPECTOR-GENERAL

ZAMBIA POLICE HEADQUARTERS
P.O. BOX 50103
RIDGEWAY
LUSAKA

5th August, 2004

Dr. Osamu Yoshida
Tokushima International Cooperation (TICO)
212-6, MAEGAWA, YAMAKAWA, OE-GUN,
Tokushima 779-3403
JAPAN

FAX: +81 883 42 5527

Dear Sir,

RE: DONATION OF AMBULANCES AND RESCUE EQUIPMENT FOR THE PROJECT

I acknowledge receipt of your letter dated June 4, 2004 regarding the subject matter.

On behalf of the Government of the Republic of Zambia, the Zambia Police in particular and own my own behalf, I express my sincere thanks over the donation which will go a long way in assisting the people of Zambia and Lusaka urban resident in particular.

I shall treasure the donation and also thank Mr. Igirashi for the efforts and his team are making in assisting members of the public and the Zambia Police.

Once again thank you very much and wish to inform you that the vehicles have already arrived in the country.

Yours in Partnership,

Zunga Siakalima
INSPECTOR GENERAL OF POLICE

c.c. The Permanent Secretary
Ministry of Home Affairs
LUSAKA

c.c. Mr. Hitoshi Igarashi
Director
SCDP Japan Zambia Office
LUSAKA

SUNDAY POST, August 15, 2004

Japan donates $35,000 ambulance to police

By Kingsley Kaswende

THE Kobe city government of Japan has donated an ambulance described as a "moving Intensive Care Unit (ICU)" worth US $35,000 to the community police ambulance rescue project in Lusaka.

Kobe city government deputy chief of emergency medical service, Kiyoshi Masai, presented the ambulance to the project.

Masai said the city government had also donated various rescue equipment to the project.

He said the ambulance would be the first one of its kind in the region, with all equipment available in an ordinary ICU on board.

"It is a very sophisticated ambulance very similar to the ICU in a hospital with sophisticated equipment," he said.

And the ambulance rescue project is to open up other posts in Lusaka to cater for the rising demand of the service.

The posts to be opened include Nyumba Yanga, Makeni and Lusaka Central, in addition to the Chainama post already in operation.

Masai said the posts would be open before 2006.

He said the demand for the service had increased, with the project receiving up to 180 calls per month, especially in areas currently not serviced by the project.

The project was started in October 2002 by the Sustainable Community Development Project and the Tokushima International Corporation of Japan (TICO) and was only centred in Lusaka East.

The two aid agencies initially donated four vehicles.

Masai said the Kobe city government had decided to join the efforts of expanding the project.

He said he would also be in Zambia for 10 days to train police paramedics and community volunteers on how to use the equipment in the ambulance.

Masai also said he would come back next year with more professional staff from the city government to give more advanced training such as helicopter rescue.

He said Zambia Air Force paramedics would be trained.

Zambia Police commissioner Steve Samatunga said there was much needed in Lusaka where, according to police data, almost 50 per cent of road traffic accidents in Zambia occurred.

Commissioner Samatunga said the opening up of new rescue units would reduce time of ambulance response to the scene of incident, which would attribute to the higher chance of victim survival.

He also said the training would provide more knowledge and skills in management of equipment and ambulances.

"One organisation would not be able to handle all emergencies which occur in Lusaka. If partners in emergency services co-ordinate, we will make differences in the lives of many," he said.

Meanwhile, the ambulance rescue project has increased the contributions for ambulance rescue services in response to the recent hikes in fuel prices, a notice says.

ication for remission of rates

TICOがNPO法人になりました

9月6日、「特定非営利活動法人 TICO」設立の申請が正式に認証されました。これまでTICO（徳島で国際協力を考える会）が行っていた活動および財産は特定非営利活動法人TICOに引き継がれます。

ご注意を！

会員の区分が変わります

会員の種別および会費の額は以下のようになります。

①正会員…この法人の目的に賛同して入会し法人の活動に積極的に参加する個人。総会での議決権を持つ。
年会費 12,000円

②賛助会員…この法人の事業を賛助するため入会した個人及び団体。総会での議決権を持たない。
一般　年会費 12,000円
学生　年会費 6,000円
団体　年会費 15,000円

現在ＴＩＣＯの会員の方は特に申し出がない場合は賛助会員とさせていただきます。会費の額に変更はありません。正会員となることを希望される方は、ＴＩＣＯ事務局までご連絡ください。

「平均寿命37歳のこの国に救急車を贈りたい！！」ヒダノ修一チャリティーコンサート for ザンビア

9月23日、鎌倉市大船のカトリック大船教会聖堂で和太鼓奏者・ヒダノ修一さんらによるスーパー太鼓セッション・チャリティーコンサートが開催されました。ヒダノさんをはじめとする出演者、スタッフは皆ボランティアで、収益金は全額ＴＩＣＯに寄付してくださいました。この寄付金は全て、ＴＩＣＯがザンビアで行っている救急隊整備プロジェクトのために中古救急車を日本からザンビアへ送る輸送費として使われます。

ヒダノさんはサッカーのFIFAワールドカップ98年フランス大会の閉会式や02年日韓共催の決勝戦オープニングイベントで太鼓演奏を行った世界的な太鼓奏者で、今回のコンサートチケット約３００枚は前売りの段階で早々と完売となりました。コンサート当日はTICOスタッフやボランティアの方々も会場で活動内容の展示やザンビアグッズのバザーを行いました。

今回のコンサートは、世界最貧国ザンビアのあまりにも貧弱な救急体制を知ったヒダノさんが、是非とも救急車を贈りたいと思い、輸送資金を集めるためのチャリティーコンサートを周囲に呼びかけて実現しました。

＜ヒダノ修一さんとＴＩＣＯの出会い＞

1998年、「東京打撃団」のアフリカ公演でザンビアを訪れたヒダノさんは、そこで「子どもの栄養改善」「救命救急体制の確立」などに取り組むＴＩＣＯ（徳島で国際協力を考える会）と出逢いました。

彼はアフリカの厳しい現実に心を痛め、ＴＩＣＯの活動に共感し、帰国後、1999年から毎年横浜や徳島などでチャリティーコンサートを催し、その収益金をＴＩＣＯの活動に寄付して下さっています。

コンサート開始前のヒダノ修一さん（後列中央）とボランティアスタッフの皆さん

TICO 国内活動 （２００４年５月～９月）

＜２００４年５月＞

１１日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１８日　徳島県立阿波西高校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
２９日　徳島県教職員組合「春の教育実践講座」へ講師派遣（福士庸二さん、登健太郎さん）
２７日　寄贈された救急機材の荷造り、積み込み作業（神戸市）
２９日　地球人カレッジ「グァテマラでの栄養士活動」（齋藤陽子さん）
３０日　「地球のステージ」（徳島こども劇場主催、TICO 協力）会場にて展示発表

＜２００４年６月＞

２日　寄贈された救急車、ワゴン車、救急機材がザンビアに向けて神戸港を出港
７日　寄贈されたワゴン車 2 台がザンビアに向けて横浜港を出港
８日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１０日　青年海外協力隊特別説明会（岡山県）へ講師派遣（登健太郎さん）
１１日　坂野中学校エイズ教育（性教育）講演会へ講師派遣（吉田修代表）
１９日　地球人カレッジ「国際協力と私」（岩佐京子さん）
２０日　インターアクトクラブ国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
２９日　甲南大学国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表、福士庸二さん）

＜２００４年７月＞

４日　山水会連合会へ講師派遣（吉田修代表）
６日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１６日　徳島市・名東郡中学校養護部会研究会国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１７日　地球人カレッジ「リサイクルで国際協力」（新田恭子さん）
３０日　山瀬小学校ハートフル委員会へ講師派遣（福士庸二さん）

＜２００４年８月＞

７日　地球人カレッジ「アフリカに１０年・子ども達と生きて」（松下照美さん）
２１日　国際理解セミナー（鳥取県）講師派遣（福士庸二さん、登健太郎さん）

＜２００４年９月＞

5 日～15 日　ザンビア・スタディーツアー（5 名参加）
６日　「特定非営利活動法人ＴＩＣＯ」設立申請の認証
７日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１４日　橋本浩一さん（TICO スタッフ）が JICA 青年会外協力隊シニア海外ボランティアへ参加（国内訓練開始）
１８日　地球人カレッジ「バングラデシュ農村における水利用・水問題と地域社会」（大倉三和さん）
２３日　「ヒダノ修一チャリティーコンサート for ザンビア」開催（鎌倉市）

１０月の地球人カレッジのお知らせ

マーシャル諸島スタディツアー報告
～日本軍の戦跡と水爆実験のヒバクシャを訪ねて

講師：武市秀男さん

10月**23**日（土）　午後 7:30～9:00

◇ところ：徳島県山川町さくら診療所デイケア室
◇参加費：無料
◇予　約：不要

珊瑚礁の砂浜にコバルトブルーの海。ゴーギャンの絵に出てくるように、椰子の木の下でゆったりした時間を過ごす人々。一見天国のように見えるマーシャル諸島には、日本やアメリカなどの大国の暴力の爪痕が残っています。５０年前に怪獣映画ゴジラが生まれたのはこの国のビキニ環礁での水爆実験がきっかけでした。第五福竜丸が被曝したのもこの核実験です。

ヒバクシャとの対談や太平洋戦争の日本軍の戦跡を撮ったビデオを見て、平和学者ヨハン・ガルトゥング氏の考えを参考にしながら、平和な世界を築くためにはどうすればいいのか考えましょう。

＜講師紹介＞
武市　秀男　（たけいち　ひでお）
早稲田大学教育学部卒。大学在学中に南米を中心に一年間で世界一周旅行をする。秘境旅行専門の旅行代理店に勤務の後に、徳島で教員となる。人権教育を担当する。平和学の第一人者、ヨハン・ガルトゥング氏に出会い平和学を学び始める。現在、ガルトゥング氏が学長を務めるインターネット上の大学、トランセンド平和大学で平和ジャーナリズムについて勉強中。

毎回地球人カレッジの開始前に会場で簡単な交流会をやってます。いつもよりちょっと早めに来て、いろんな分野の人たちと知り合いになりませんか。
午後 7：00 から。参加無料、予約不要。

おしらせ

●講師派遣

TICO では総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはＴＩＣＯ事務局まで。

●チペンピ開発ローン支援者募集

以下の事業の支援者（出資者）を募集しています。

事業 No.6 養鶏事業
事業 No.7 保育園整備事業
事業 No.8 養鶏事業

●TICO・ザンビアグッズ販売中

Ｔシャツ、ネックレスなど。収益金はザンビア支援に使わせていただきます。

ＴＩＣＯホームページで最新情報をご覧いただけます！！
http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/

ありがとうございました

☆寄付をくださった方々☆
村上令子　木屋平中学校　美馬安子　ヒラオカ薬局　美酒美食梵　熱田五十嵐仁　高木クニ子　北原シゲ子　阿波西高校　戸井裕江　新開ヨシ子　篠原弘子　渡部豪　坂野中学校　吉田修　山岡智亙　インターアクト委員会　青柳陽輔　池北國子　甲南大学　山水会連合会　寺口美香　美馬文子　ＫＯＶＣ有志　村田郁雄　中倉吉一　名東郡中学校養護部会　福士庸二　福士美幸　堺隆弘　橋本伸子　木村節子　大津和子　岡崎貴世　大福月江

☆会費を継続して払ってくださった方々☆
井内一志　井形和枝　大瀧知津枝　尾崎富美子　垣原宏治　金納千晴　佐藤慶子　祖父江八重子　田所幸枝　畑和子　中村靖子　町田美佳　松岡哲也　大西和賀　中川公輝　みずほメディカル　北島コーポレーション（株）幸燿西部営業所　秋月益子　井内誉範・晴子　武市秀男　茶畑勝博　登健太郎・佐知子　檜みどり　相島由紀　赤星小百合　井原宏　浮森和美　岡崎明美　河合栄枝　工藤敏信　酒巻栄子　佐古和雄・友美　篠原弘子　鈴木薫　砂田せつこ　住友和子　田岡敬子　武田律　地造津根子　入交秋子　橋本浩一　廣瀬文代　福井康雄　福井照実　福士庸二　福士美幸　福田純子　傍示桂子　松井美香　吉田修・益子　吉見千代

☆新たに会員になってくださった方々☆
木下恭亮　齋藤陽子　鈴木由芽　田岡敬子　寺口美香　中村晃一　松浦和美　美馬安子　佐藤理恵子　中本祥二　木村節子

（2004 年 4 月 1 日から 8 月 31 日までの事務局入金分:順不同　敬称は略させていただきました）

横浜の居酒屋設置の募金箱から寄付

横浜市都筑区中川の居酒屋「美酒美食梵（びしゅびしょくぼん）」さんから 10,771 円の寄付金をいただきました。

TICO の活動に賛同してくださった店長が店内にザンビア支援の募金箱を設置し、店に来たお客さんから集められたお金です。この寄付金は全額、ザンビアの支援事業に使わせていただきます。

救急機材の積み込み作業ボランティア

日本各地から寄付いただいた救急車や救急機材の荷造りと積み込み作業を 5 月 27 日に神戸市で行いました。重たい機材が多かったのですが、当日は神戸のボランティアの方々が多数協力してくださり、無事積み込むことができました。機材はすでにザンビアに到着し、現地の救急救助活動に活用されています。

【入会方法】

郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎号送付いたします。

個人賛助会員：12,000 円／学生賛助会員：6,000 円
団体賛助会員：15,000 円／個人正会員：12,000 円
（個人正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

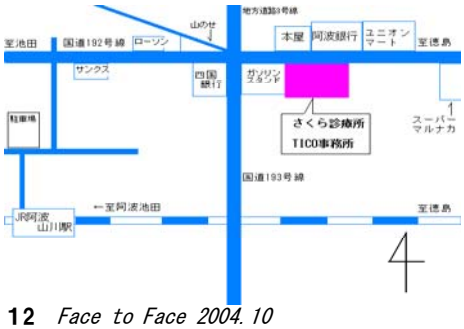
振込先：郵便振替口座　０１６４０－６－３７６４９
振込先加入者名：TICO

Ｅメールアドレスをお知らせいただいた方にはＴＩＣＯの各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

ＴＩＣＯの活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

【寄付のお願い】

TICOの活動に賛同し募金という形で協力してくださる方は上記の郵便口座にご入金ください。



TICO ニュースレター Face to Face 第 1 号 2004 年 10 月発行
発行編集人：吉田　修　　編集代理：登　健太郎
【TICO 事務局連絡先】
〒779-3403　徳島県吉野川市山川町前川 212－6
電話：090-7786-3193　/ ＦＡＸ：0883－42－5527
TICO ホームページ：http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/
e-mail：zikomo@nmt.ne.jp